

事例9 瓦版でタイムリーに情報提供、団地のよろず相談

フレール西経堂自治会 駒井 澄子会長

■瓦版で、タイムリーに情報提供

瓦版を月一回発行。簡易なものですぐに掲示板に貼り、配布します。たとえば何か窃盗などの事件があったらすぐ伝えます。毎月一回出すのが大切です。隔月にしたこともあります。高齢者から毎月読みたいという要望があり、再開しました。掲示板ではすぐ何時頃どこでどういう犯罪があったかということを知らせます。もちろん、実名は出しません。

■行事のチラシで新規加入の案内

新しい居住者には行事の度にチラシを配布し、加入してもらいます。掲示板にも行事の時にあわせて加入依頼などを貼ります。

■防犯パトロール

防犯のパトロールはパトロール協力員が相談して、不定期に4日に一回程度、9時から回っています。

夜警のカチカチという音に対して、新しく入ってきた若い人がうるさいと文句を言ってきたことがあります。高齢者や一人暮らしの人が音をきくと安心する。不定期に回ることで抑止力になると説明して、理解してもらいました。

■中高生にはやさしく対応

中高生が夏の夜遅くまでエントランス

部分に溜まっていたことがあります。その時、一方的に「帰れ」というのではなく、「家の人は心配してないの？」と声をかけます。どうせ遅くまでいるのなら「不審者がいたら、すぐこちらに電話して」と役割を与えるようにしました。今は深夜までというのはなくなりました。

■災害対策に力を入れている

避難所運営は学校単位ですが、船橋地区では町会自治会がひとつの避難所運営をするという仕分けをしてもらい、うちは希望ヶ丘小学校を担当することとなりました。

P T Aに協力してもらい、学区で考えて避難所運営の訓練をしています。年1～2回泊まりの訓練と、毎年1回池袋の防災館に研修に行きます。

防災倉庫の点検入れ替えや防災マップを配布して、それを見ながら通学路の状況をチェックしてもらい、といった活動もしています。

また、運営委員が何もかもやるのではなく、混乱の中で委員は指示を出す役だけで皆に動いてもらう訓練訓練をしています。

■協力員で気軽に手伝い

運営委員会の中に協力員がいます。役員は無理だけど協力員なら良いという人

は多いので、協力していただきます。活動を経験すると役員になって下さる人も出てきます。

■保存版のチラシ作成で読んでもらう

チラシはすぐになくしてしまうので、「ゴミ読本」「防災読本」のように読んでもらえるように少し立派につくりまします。

■ゴミ問題

集合住宅ではゴミをきちんと分別して出そうと言うことで、全員にゴミ当番になってもらいます。やることは鳥よけネットがかかっているか、回収後にネットが寄せてあるかといった程度ですが、意識

が変わります。

■団地自治会の抱える問題

団地の建て替えで家賃が高くなり、移動が激しくなりました。建て替え前は役員も含めて1年交替でしたが、それでは都市機構や区との連携がうまくいかなくなることがあったので、長くやるようになりましました。

まちづくりはそこに長く住んでもらわないとできません。入居者の入れ替わりが激しくなり、昔と気質が変わりました。協力体制が変わってきていますが、長い間の蓄積でこまかなアイデアが積み上がっています。



町会加入の案内チラシ、保存版の「防災マニュアル」と「ゴミ読本」